

第1回m e e t u s 山科-醍醐推進本部会議（摘録）

1. 本部長訓示（坂越副市長）

- ・ 洛西“SAIKO”プロジェクトに続いてm e e t u s 山科-醍醐を立ち上げた。
 - ・ 洛西“SAIKO”プロジェクトは現在進行中だが大成功を納めたと思っている。
 - ・ 先週木曜日に西京区役所と洛西支所を視察したが、地域住民も職員も非常に活き活きと輝いてSAIKOプロジェクトに取り組んでいる。
 - ・ このプロジェクトが地域の大きな転機になったと感じており、人口減少対策としても大きな拠点になるように思う。
 - ・ 第2弾としてm e e t u s 山科-醍醐も洛西のような成功に繋げていきたい。
 - ・ 山科・醍醐地域は京都駅に次ぐ交通結節点であり、京都駅や田の字地区に公共交通機関ですぐに行ける。また、大津市や石山市、膳所といった本市の人口流出先と比較しても地価の面では遜色ないレベルという点は子育て世帯の拠点にもなり得ると思っている。
 - ・ 新十条通も開通無料化され、外環沿線は昨年都市計画の高さ制限の見直しも行った。非常にポテンシャルが高い一方で、人口減少率は行政区の中でも高い方で、人口減少が大きな課題となっている。
 - ・ 伸び代が高いが活かし切れてないという大きな課題がある。
 - ・ 従って、似たような大きな課題があった洛西地域を“SAIKO”プロジェクトで変えることが出来たように、ミータスで山科・醍醐地域も変えていきたい。
-
- ・ 3つお願いがある。1点目は、洛西“SAIKO”プロジェクトが成功に至った3つの要因をm e e t u s 山科-醍醐でも発揮すること。洛西“SAIKO”プロジェクトを1つのモデルとして参考にして欲しい。

【3つの要因】

- ① 各局横断でそれぞれの局が1つでも2つでも弾を出すこと。それぞれの弾が集合体になると、本当に良いものになる。
- ② 企業と連携すると共に、地元の方々も巻き込んで一緒になって進めていくこと。行政だけでは限界がある。
山科・醍醐地域では、JRやUR、地域拠点の医療経営法人といった力のあ
る企業がある。
- ③ 労働力と予算の集中投下。“SAIKO”プロジェクトでは多くの職員に励
んでいただきかなりの労働時間を集中投下した。また予算面でも公園や道
路にかなり集中投下した点が成功の一因にある。今回も山科-醍醐地域を重
点地域として、類似手法を使える点はどんどん使い、全市のもう1つモデル
として、子育て対策や人口減少対策、地域活性化のモデルを作って欲しい。

- ・ 2点目は、例えば東部クリーンセンター跡地活用や市営住宅の中長期的な再編といった大きなプロジェクトが幾つかあるが、これまでは個別に事業を進めてきたと思うが、今回のm e e t u sの誕生を契機に、全体的なタイムスケジュールを意識しながら進めていって欲しい。
- ・ m e e t u sの最終発表までに1歩でも2歩でも何らかの方向性を出せるよう、発表に間に合うように、各局が抱えている各事業を進めて欲しい。
- ・ 3点目は、個々の職員が非常に楽しんで、プライベートの時間も含めて洛西地域に出かけていくなど、ワクワクしながら楽しみながら様々な活動に取り組んだ点が一番大きな成功の要因にあったと思う。
- ・ 山科・醍醐に関しても、動かしている職員の方々がどのような姿勢で取り組まれるかが非常に重要。ぜひ楽しんで、少しでも良くなるように皆様の知恵を出し合って取り組んでいただきたい。

2. 副本部長発言（山口山科区長）

- ・ 山科地域は京都市に編入されてからまだ100年にも満たない、また東山区から分
区されて50年にも満たない若い区である。しかしながら1400年を超える豊かな
歴史や文化、自然を有している地域である。
- ・ 地域の見守りや、美しい環境を守るための取り組みといった良好なコミュニティ
も存在している。
- ・ 令和3年に策定した第3期山科区基本計画に掲げた将来像「心豊かな人と緑の“き
ずな”のまち山科」を地域の皆様とともに検討し、取り組みを推進してきた。
- ・ 「伸び代がまだ生かし切れていない」という課題に通じるが、将来像の実現に向け
て山科が持つ様々な魅力を活かしていく伸び代がまだまだあると感じている。
- ・ 今回のプロジェクトは、山科区の発展のための絶好の機会であると捉えている。
- ・ 山科地域の取り組みと、このプロジェクトの相乗効果によって、より多くの皆様に、
住み続けたい、また住んでみたいと思っていただける、更に素晴らしい山科を実現
していきたい。
- ・ 地域住民や、事業者との連携方法についても検討し、地域の皆様と一緒に取
組みを進めていきたい。

3. 副本部長発言（横山担当区長）

- ・ 醍醐は、世界遺産・醍醐寺のおひざ元であり、親鸞聖人が生まれ、明智光秀が没し
たとされる土地でもある。古くは、（京都と奈良を結ぶ奈良街道や）巨椋池を活用
した水運により栄えた、交通の要衝であり、長くわが国の歴史の舞台になってきた、
歴史と文化豊かな土地である。
- ・ 一方で、全市平均と比べて人口減少や高齢化が進んでおり、ひとり親世帯や高齢単

身世帯も多い地域でもある。

- ・ この背景には、高度経済成長期から、京都市が抱える様々な課題に対応するため、多くの公共施設を引き受けてきた歴史がある。
- ・ 醍醐には、100棟を超える市営住宅が建ち並び、府営住宅、URを合わせた公的住宅にお住まいの世帯が、全世帯数の4割近くを占めている。
- ・ これらの公的住宅の多くは、昭和40年代から50年代にかけて集中的に整備されており、昭和40年に1万人余りだった人口は、10年で4倍以上になった。今、中心部よりも急激な人口減少、高齢化を迎える局面に至っているのは、その当然の帰結とも言える。
- ・ このような醍醐だが、地域コミュニティの結束は強い。域内をくまなく走る「醍醐コミュニティバス」の運営をはじめ、地域防災、安心安全の見守り、美化活動など、様々な活動に熱心に取り組まれている。
- ・ 中でも、醍醐コミュニティバスは、「地域の足は地域で守る」という高い志のもと、地域の企業、(施設、) 団体、個人が力を合わせ、(全国初の)「市民共同方式」で運行。運行開始20年となる昨年2月には、延べ利用者数が1,000万人を突破し、地域の生活の足、観光の足として定着している。
- ・ このような、地域の皆様の絆と行動力を今後につなげ、将来にわたって「醍醐に住んでよかった」「京都に住んでよかった」と実感していただけるよう、支所としても、全力を尽くしてまいりたい。
- ・ とはいえ、醍醐支所ができることは限られる。今般、このような推進本部を立ち上げ、全庁的な取組を進めることとなり、大変心強い。
- ・ 本日の会議でも見てきたように、醍醐地域は、ポテンシャルに満ちている。
- ・ 地下鉄東西線と外環状線が南北に走り、市内中心部にも、また、大阪・奈良・宇治など近隣他都市へのアクセスも抜群に良い。
- ・ 更に、地下鉄石田駅に隣接する東部クリーンセンター跡地など、新たなまちづくりにつながるような活用が期待できる市有地も多い。
- ・ 山科・醍醐の将来のため、ひいては、本市の明るい未来のため、お力添えをいただきたい。
- ・ 言うまでもなく、住民あつての地域であり、地域の主役はあくまで住民。地域の声を積極的に聞き、本会議にも届けてまいりたい。
- ・ 子育て世代をはじめ、若い世代・現役世代に是非お越しいただき、地域を元気づけていただきたい。同時に、今お住まいの皆様が末永く安心して暮らし続けられるよう、地域の皆様とともに歩んでまいる所存。是非とも皆様の御協力を、よろしくお願いする。

4. 副本部長発言（竹内都市計画局長）

- ・ 私はこのプロジェクトを本庁側で全体をまとめる立場と、一原局として例えば市営住宅の入居促進などの取組みを進めていく両方の立場にあるが、今回は本部長を補佐する立場として発言する。
- ・ 今回のプロジェクトは、局横断そして各部局の英知を集めて山科・醍醐に集中投下することが非常に重要である。
- ・ 都市計画局も含めて各局から1つでも多くの弾を出していただくよう、よろしくお願いします。
- ・ 加えて、地域の皆様の声をよく伺いながら進めていくことが非常に重要。
- ・ 山科区役所・醍醐支所の皆さんと一緒にあって、住んでいる方々の思いを聞きながらそれに応えていく。そのように進めていきたい。
- ・ 副市長からご発言があったように、個々の力、そして楽しんでというお話もあったとおり、若い職員や担当する職員が、日頃の業務を通じて出てきたアイデアや提案を少しでも形にしていきたい。
- ・ また、実際に現場で実務を担当する皆さんとの話し合いを通じて、プロジェクトを進めていきたい。
- ・ 昨年度から始まった洛西“SAIKO”プロジェクトとmeet us 山科・醍醐の枠組みは非常に似ているが、地域が全く異なる。その地域の方が抱える思いや事情も異なるため、新たなプロジェクトとして心機一転取り組んでいきたい。